



手づくり支援プロジェクト

～手づくりの器を直接被災地に届けよう～

第5回支援活動の記録 2013年6月7日～9日 (宮城県東松島市)



手づくり支援プロジェクトとは

私たちは震災直後から東北の被災地で栃木の名産である益子焼などを提供する陶器市イベントを開催してきました。避難所で多くの方々サランラップを敷いた発泡スチロールの食器で食事をしている姿をTVでもよく見たと思います。私たちの職場でも震災後しばらくは発泡スチロールの器を毎日洗いながら再利用し、日に日に変形劣化してゆく容器で、冷たい味気ない食事をしていました。被災地での辛さとは比べようになりませんが、自分たちでさえこのような辛さを感じていました。

その後、徐々に仮設住宅ができ、避難所から仮設住宅に入居が始まりましたが、仮設住宅には基本の食器のset(飯椀、湯呑、小皿など)はありますが、数や種類は少なく、すべて量産品の画一なもので、まるで病院の食器のように感じました。

栃木にいる私たちが地元東北の為に何ができるだろう、といろいろ考えましたが、栃木も益子や芳賀など多くの被害があり、友人に被害を受けた益子の陶芸家も多くいたこともあり、栃木と東北を両方支援できたらと、社内、関連メンバー、益子の陶芸家たちとこの支援活動をスタートさせました。仕組みは一般の募金(個人や協賛店)で器を購入し、それを私たちが直接被災地へ届けるといったものです。一般の方々、お店、作家の協力により、お金は栃木、益子に循環させ、器を東北へという流れで双方を支援する形をとっています。器は生きる基本である「食」に彩りを与え、復興に向けた毎日の生活の中で少しでも明るく元気になるような一助になってもらえたらという想いでこの活動を行っています。

活動の軌跡

↓陶器市や協賛店でのフライヤー(現在)

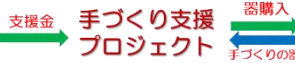
一般支援
募金/ボランティア



手づくりの器を被災地へ届けよう!

手づくりの「器」は、生きる基本である「食」に彩りを与えます。そんな「器」で、復興に向けた毎日が少しでも明るく、元気になってもらえたら、という想いで活動しています。

作家による支援
食器提供(益子焼など)



栃木在住の東北出身の個人、会社員による運営
(広報活動/募金活動推進/企画) 製作Fetco

- ・上記の3割での提供
- ・B品/半端品などの無償提供
- ・陶器市での募金推進協力

これまでの活動実績!

- 2011年7月 山田町 4000器を提供
- 2011年12月 大沼町 釜石市2700器を提供
- 2012年7月 陸前高田市3000器を提供(完全自主寄付)
- 2012年12月 気仙沼市(1200器を販売、全売上げを寄付)

◎支援金の口座
・銀行振込
口座名義: 株式会社 岩手県 復興委員会
◎お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索
<http://handmade-project.linfo.com/>

2011 3月末

岩手出身の光房みちが友人の陶芸家
ホソカワカオリ氏に本支援プロジェクトを相談、
友人の約20名の作家の賛同を得てスタート
矢川士郎氏、矢川杏子(筆作家)氏も参加し、
募金活動のノベルティーグッズを考案



サバイバル用のホイッスルに
「二度と使うことがないように」
と願いをこめて、手づくりで革の
カバーに器の焼印を一つ一つ入れ
製作

4月

同郷の小向麻子氏も加わり、HP製作、法人口座開設
益子春の陶器市での協力作家家への呼びかけ、募金開始



「手づくり支援プロジェクト」は被災地へ手づくりの器を届ける支援活動で、
一般の方々からの支援と、モノづくり作家による支援の、両方による東北支援活動です。
キャッシュフローをすすめて、金額以上の大きな付加価値で、東北だけでなく栃木も支援したいという想い
込められています。(現在、約60の協賛店、80名以上の作家が参加してくださっています。)

手づくり支援プロジェクト 協力作家

手づくりの器には作り手の想いが込められています。
(現在80名以上の作家さん、約60の協賛店にご賛同いただいております)

・協力作家(名順) ※掲載ご承諾のみのみ

藤井なつき	岩崎良子	中村かりん	堀水小夜
阿久津理士	横山友里	坂本光永	堀水美穂
古部謙介	藤村舞希	坂本穂子	堀水美穂
池田純生	加藤伸一	佐藤幸一	野水美穂
伊名美希	加藤空	清水香穂	Masa
石橋美穂	加藤美穂	辻野悠	ハマモリ
いちかわ清美	川崎朝陽	長瀬翔	長瀬翔
伊藤あけみ	川崎あけみ	藤田あけみ	藤田あけみ
木原さゆり	上野さゆり	川崎さゆり	川崎さゆり
奥泉美穂	川崎和子	川崎和子	川崎和子
小野あゆみ	水谷あゆみ	水谷あゆみ	水谷あゆみ
あかきさゆり	あかきさゆり	あかきさゆり	あかきさゆり
藤本久美	山崎久美	山崎久美	山崎久美
藤田さゆり	藤田さゆり	藤田さゆり	藤田さゆり
藤田あけみ	藤田あけみ	藤田あけみ	藤田あけみ
おとがわさゆり	おとがわさゆり	おとがわさゆり	おとがわさゆり
後藤あゆみ	後藤あゆみ	後藤あゆみ	後藤あゆみ

協賛店

Company	Beauty
ジョイコム株式会社	PESCA-GOCCA
ソフトバンク	Handmade soap SQUAMISH
インターネットパーク宇都宮	salon kendo
ソフトバンク宇都宮支店	minor 酒造所
ソフトバンク東京	Usuki-Goro
ソフトバンク吉野	hair labo natura
ソフトバンク真田	Recife Marks HAIR
イーモバイル宇都宮	sea hair work
ハイビスカス日本橋店	
株式会社日光エト	Education
株式会社つかもと	パナフキッズ (美会話教室)
作家 つかもとキョウロウ	森野校、戸原校
株式会社つかもと	
つかもと紀香	
株式会社日本オーグ社	
Cafe & Gallery	
GALLERY IN THE BLUE	
Cafe R hana	
Quisquina	
Café KENZOSUN	
餅屋 餅屋	
GALLERY TAS TASTAS	
CAFE CENTRO	
作家 岩手県アンチ	
アートショップ 岩手	
イトーヨーカドー	
Select Shop	
ハマグリ	
GOJUP-in	
うがわ	
アートショップ 岩手	
相模原店 木津町 岩手	
Stay & Culture	
二階倶楽部 7+1c 1c7+1c 那須	



・連絡はこちら

詳細は「手づくり支援プロジェクト」のサイトをご覧ください。
・PC、スマートフォンからは <http://handmade-project.linfo.com/>

2012 3月

14日、下野新聞に掲載
4月 益子春の陶器市開催、募金活動~器集め
7月 14~15日、第三回陶器市開催(岩手県 陸前高田市)
15日、岩手日日新聞に掲載
17日、三陸経済新聞に掲載
11月 益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め
12月 8日、第四回陶器市開催(宮城県 気仙沼市)
23日、下野新聞に掲載

2013 3月 「ソトコト3月号」に掲載
4月 益子春の陶器市開催、募金活動~器集め
6月 7日、下野新聞に掲載
7~9日、第五回陶器市開催(宮城県 東松島市)

東松島市について

第4回の支援を行った気仙沼市に続き、今回は東松島市で開催しました。東松島市は石巻市の南に位置し、現在人口約40,000人の市で南には名勝「松島」があります。震災では市内全住宅の76%(約11,000棟)が全半壊し、航空自衛隊の松島基地も大きなダメージを受けました。サッカー選手で元ベガルタ仙台の山路嘉人さんの出身地でもあります。以下に今回の活動を行った東松島市のデータなどを記載します。データは市役所や復興庁、その他出版物などに基づいています。



1. 被災状況(市役所公表データ 2013/2/19時点)

- 死亡者数 1103人
- 安否不明者数 28人
- 仮設住宅数 1808戸(21箇所)

2. 被災戸数の内訳(地震被害を除く)

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
5499戸	3054戸	2501戸	3510戸

全戸数の約37%が全壊、約37%が半壊、一部損壊まで含めると全世帯の約97%となり、ほぼすべての世帯が被害を受けています。

3. 世帯数、人口の変化(2012/12時点)

	世帯数	人口(人)
震災前(2011/3)	15,080戸	43,142
現在(2013/5)	14,805戸	40,358

全世帯数は大きな変化はないですが、人口は震災後から徐々に減少しています。

4. 仮設住宅

- 全25団地、1753戸(うちグループホーム型2団地26戸含む) 避難所は2011/9にすべて閉鎖

↓間取り例(2DK:2~3人用)

↓仮設住宅(写真は矢本運動公園、右はその一角の仮設店舗)



家電(日本赤十字社からの寄付)
32型液晶TV、冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、電子レンジ、エアコン



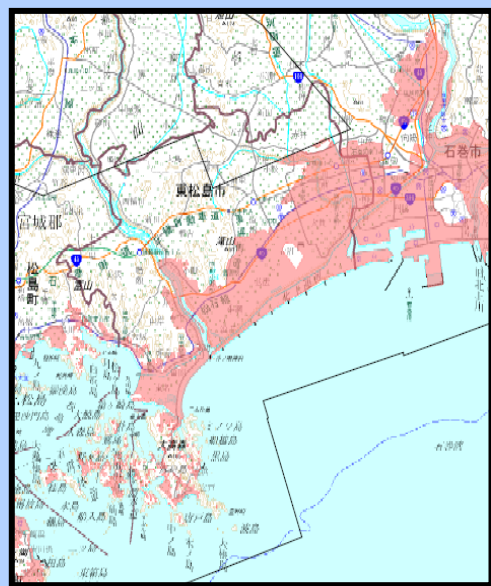
全25団地(すべて完成)

項目	数
仮設住宅	1,753 戸(うち1,571戸入居)
入居割合	89.6%
入居者数(人)	3,827 人

※上記に加え、民間賃貸(みなし仮設)数は800件、入居者数2298人(H25.6.30時点)



浸水被害図(赤色の部分※国土地理院より)



平野部の生活区域のほとんどが津波による被害を受けていることがわかります。

地図データ ©2013 Google

5. 東松島市の被災の特徴

(1) 地震と津波の状況

14時46分の地震で市内で最大震度6強が観測され、野蒜海岸北側エリアの最大津波高さは10mを超えました。本市は、沿岸部に位置し、多くの河川と運河を抱える地域特性から、市街地の約65%が浸水し、津波浸水区域の割合は全国の震災被害市町村の中で最も高くなっています。

各地区に到達した津波の推定高さは上記の通り。東松島市の大塚、宮戸島での地盤沈下も顕著になっています。

(2) 家屋被害と施設被害額

家屋被害と施設被害額は右記のとおり(市役所データ)

家屋被害 平成25年10月1日現在	
全壊(流出戸数含む)	5,499戸 (うち流出1,266戸)
大規模半壊	3,054戸
半壊	2,501戸
計 (全壊・大規模半壊・半壊の被害割合)	11,054戸 (全世帯の約76%)
一部損壊	3,510戸
合計 (総被害割合)	14,564戸 (全世帯の約97%)
施設被害額 平成24年4月現在 ※調査継続中	
公共施設(庁舎等)	9.86億円
市道、橋梁等施設	100.07億円
下水道施設	74.48億円
教育施設	92.64億円
福祉施設	12.23億円
保健施設	0.21億円
農林水産業施設	363.61億円
観光施設	3.57億円
情報施設	3.90億円
防災施設	8.14億円
合計	668.71億円

(3) 災害公営住宅の着手状況 宮城県データ

東松島市も着手はしているもののまだ完了しているものではありません。

災害公営住宅整備(事業着手)状況 (平成25年9月30日現在)

市町名	計画戸数	着手地区数	着手戸数		完了戸数	
			進捗率	進捗率		
仙台市	3,000戸	30地区	2,613戸	87.1%	12戸	0.4%
石巻市	4,000戸	20地区	1,137戸	28.4%	40戸	1.0%
塩竈市	380戸	7地区	117戸	30.8%	0戸	0.0%
気仙沼市	2,000戸	10地区	1,346戸	67.3%	0戸	0.0%
名取市	1,000戸	1地区	50戸	5.0%	0戸	0.0%
多賀城市	532戸	3地区	482戸	90.6%	0戸	0.0%
岩沼市	223戸	1地区	223戸	100.0%	0戸	0.0%
東松島市	1,010戸	8地区	632戸	62.6%	0戸	0.0%
亘理町	516戸	4地区	400戸	77.5%	0戸	0.0%
山元町	600戸	4地区	424戸	70.7%	50戸	8.3%
松島町	40戸	2地区	40戸	100.0%	0戸	0.0%
七ヶ浜町	217戸	5地区	217戸	100.0%	0戸	0.0%
利府町	25戸	1地区	25戸	100.0%	0戸	0.0%
女川町	945戸	2地区	227戸	24.0%	0戸	0.0%
南三陸町	930戸	4地区	204戸	21.9%	0戸	0.0%
登米市	60戸	4地区	60戸	100.0%	0戸	0.0%
涌谷町	48戸	3地区	48戸	100.0%	0戸	0.0%
栗原市	15戸	3地区	15戸	100.0%	15戸	100.0%
大崎市	170戸	5地区	150戸	88.2%	0戸	0.0%
大郷町	3戸	1地区	3戸	100.0%	0戸	0.0%
美里町	40戸	3地区	40戸	100.0%	40戸	100.0%
21市町	15,754戸	121地区	8,453戸	—	157戸	—

写真で見る被災状況(2013/07現在)



瑞巖寺山門前
震災後は土砂が覆っていた道も現在はきれいになっています。お店もほぼ元通りに



野蒜駅周辺(JR仙石線)
陸前大塚駅から陸前小野駅までについては線路を内陸に移設し2015年度内の全線復旧を目指す



陶器市開催会場(矢本運動公園)付近
運動公園内に577世帯の仮設住宅があり、この手前の広場でイベントを開催



宮戸島の連絡橋が震災で壊れたため島は物資が届かずしばらく孤立状態であったが「門橋」と呼ばれる大型いかだを川に浮かべ、パワーショベルなどの重機を島に運び込みました。(現在は橋も復旧)

震災前



震災後



写真企画WEBより

野蒜海岸：津波により緑が減り、水没部が増えていることがわかります。

陶器市(東松島市での開催)

手づくり支援プロジェクトは、地元の方々の生活を手づくりの器を使っていただくことで、毎日の食事から少しでも明るく元気なものにしてもらいたいという想いで、2011年は無料配布という形で陶器市イベントを開催してきました。震災後の街の復旧にとともに、また開催地の要望などもあり、2012年からは無料ではなく下表のような格安でチャリティー販売し、売り上げ(収支は後頁に記載)をすべて開催地の運営資金や修繕資金などに充ててもらうことにしています。

イベントポスター



今回も益子「春の陶器市」終了後の開催をめざし、準備を進めてきました。前回の気仙沼で、天候のため中止になった花火やらーめんのイベントをまたぜひ一緒に実現したいと関係者で話をしていましたが、そのイベントがさらに多くの栃木のボランティア団体の参画した「とちぎまるごと元気にスッペin東松島」というイベントになって実現しました。

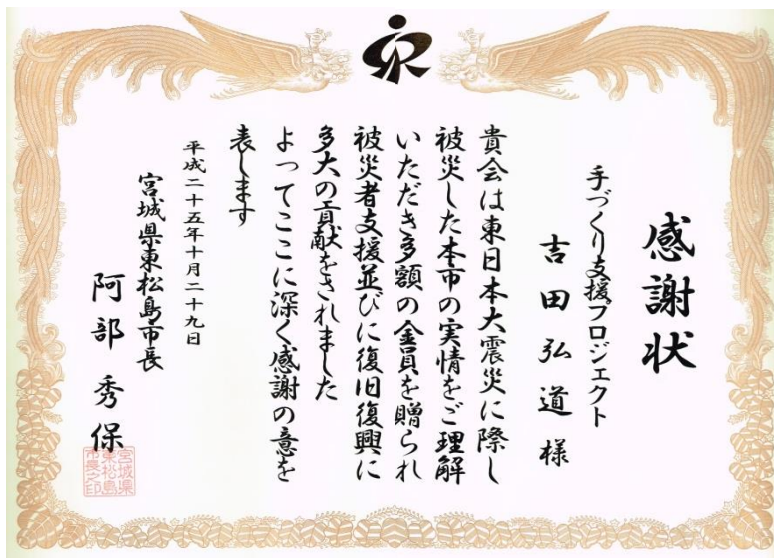
参加する団体は東北に桜を植樹する活動を展開する「栃木さくら11」、らーめんで元気を提供する「照る照る坊主の会」、「栃木めっけの会」など、約10もの団体が参加するとても大きなイベントになりました。

開催場所となる矢本運動公園は577戸の仮設住宅がある、市内で最も大きなコミュニティになっています。同仮設敷地内にイベント広場があり、この中でのチャリティー陶器市の開催となりました。

売り上げは全額、東松島市へ寄付し、防災環境整備に使っていただくことにしました。後日、同市長より当プロジェクトへ感謝状をいただきました。この場を借りて当プロジェクトにご協力くださったすべての方々へ御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

参考：チャリティー陶器市での提供価格

品物	市価	提供価格
湯呑、小皿、茶碗など	~1500円	200円
中皿、椀ものなど	1500~5000円	500円
大皿、急須、花器など	5000円~15000円	1000円



東松島市での陶器市開催

イベントなどの少ない被災地で実際の陶器市のように、好きなものを選び、少しでも楽しんでもらいたいということで、前回と同様に陶器市という形での開催にしました。

今回も前回同様に大皿や魚皿、小～中鉢、急須、そのほか花器、丼ものなど、多くの種類をおりまぜて準備をしました。また、夏ということでマグカップなども多く集まりました。募金額の大幅減のため、今回は多くの作家さんより無償で器の提供をいただきました。また県外の作家さんからもご協力をいただき、多くの種類の器(約3000点)を用意することができました。

本支援プロジェクトへ参加してくださる作家さんの数は少しずつですが増えています。震災からだいぶ時間が経っていますが、継続してご協力くださる作家さん、協賛店の方々、県外からもHPやご紹介で、関心を持って下さる方々など多くの関係者のお力添えのもと、プロジェクトは継続することができています。手づくりの器は見て楽しめるだけでなく、実際に触れて使っていただくことで徐々に変化し、味が出てきます。復興へむけたこれからの長い道のりの中で、被災地の方々とともに毎日の食へのいろどりを与え続けられたらという想いを込めて、陶器市を開催しています。未永く使っていただけたら嬉しいです。

メンバーの活動風景 6月7日(金) 出発



AM9:00益子に集合。

ステップワゴン2台、ストリーム2台、モビリオ、フィットのリヤシートをフラットにし、これまで準備した約3000個の器(コンテナ84個)、その他コンパネなど機材を積込む。行程のフリージングを行い、計7台、13人の先発隊でAM10:00 出発。(他は現地合流)



今回は前回追加でお願いされていた新しい仮設店舗で開店する陸前高田の鶴亀鮎さんへの湯呑も一部メンバーでお届けしました。PM3:00 益子から約313kmを走行し、東松島市の会場に到着。到着後、自治会長さんや事務局に挨拶し、明日からの開催に向けた現場のレイアウト確認など打合せを行いました。その後、宿へ移動。宿では明日の陶器市に向け、準備を行う。



広場の周りにはいくつかの商店があり、生鮮食材や食事ができるようになっていました。写真中央は今回お世話になった宿。海のすぐそばだが津波による被害は少なく、震災直後から地元の方への救援を行った。宿では明日の陶器市に向け、準備を行う。夜、早朝のメンバーと合流し計28人となる。

6月8日(土) 東松島市(矢本運動公園内)での陶器市開催

矢本運動公園の仮設住宅は577戸ということで最も大きな規模ですが、市内全27団地に暮らしている仮設団地の方々が久々に会う機会としてこのようなイベントが重要になっているという声をよく聞きます。震災後だいぶ時間が経ちましたが、このようなイベントが今後も継続して開催されるようにしてゆくことが大切であると考えています。活動には多くの方々の協力やメンバーの尽力が必要ですが、今後も県内外の活動メンバーと力を合わせて継続してゆこうと思っています。



・AM7:00 コンテナを降ろし、総動員で準備を行う。早朝到着メンバー合わせ計24名で準備を行う。今回は夏ということで、ピアマグなどを多めに用意し、各アイテムごとにディスプレイを行った。また今回もチャリティー販売の形で陶器市イベントを開催しました。



・AM9:30 会計、梱包処での袋準備(取扱い説明書や寄書のチラシ入れ)などを行い、ほぼ準備完了。



・AM10:00開始ですが開始前からすしすつ地元の方が入ってきました。今回も震災からだいぶ時間が経っているためか、それほど朝は早くない感じです。これまでと同様にプロジェクトの趣旨などをディスプレイし、呼び込みのサンドイッチメンバーも配置。最後のミーティングを行いイベントスタート。

この日も少雨が断続的にあり、新聞や梱包どころ、足場のぬかるみなどが厄介でしたが、お昼前には止み、快晴になりました。これまで毎回何らかの雨や雪に見舞われますが、幸いなことにイベント中止になるような天気にはなっていません。メンバーには強力な雨男(女)と晴れ男(女)?がいるようです。

我々の陶器市含め、イベントのテントは中央のプロレスリングを囲み、お客さんが中央に流れるようにして開催をしました(レイアウトの詳細は次頁)。

イベントレイアウト

イベントを開催した矢本運動公園でのレイアウトや様子などを記します。



手づくり支援プロジェクトのテント

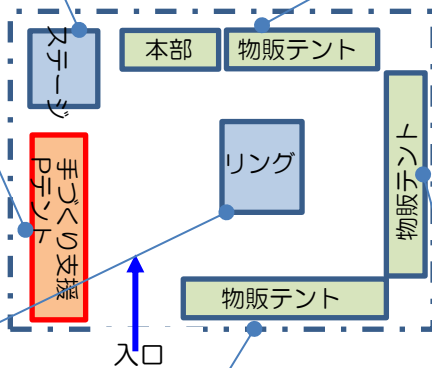


寄席、ライブなどのステージ



本部席、物販テントとその前の観客スペース

手づくり支援プロジェクトの陶器市開催場所はテント3つ分(赤枠)入口から陶器市テントが奥に位置しているので、中に進み、イベントスペースに抜けられるレイアウト



プロレスリング
(ゼロワンプロレスなど)



足利名物「焼きそバーガー」など



栃木めっけの会による物販ブース
串焼き、ビールなどいろいろな食べ物
が並びました。

イベントスケジュール

6/8のイベントのスケジュールは以下のようになっています。

- 10:00 イベントスタート
らーめん(照る照る坊主の会)、栃木の物販など
- 11:15 センダイガールズプロレス/ライブショー
- 13:45 ゼロワンプロレス
- 17:00 カラオケ大会
- 19:30 花火(栃木めっけの会)

我々の陶器市は平行に並んだ商店街の中、プレハブに沿って配置し、お客さんが中央に流れるようにして開催をしました(レイアウトの詳細は次頁)。

陶器市開催 (AM10 : 00~)

昨夜から雨が心配でしたが、小雨時々晴れの天気になりました。10時の開催時間前から少しずつ人足が増えてきました。ゼロワンプロレスが来るということでお昼前にはかなりの盛況になりました。



・大きなイベントということでたくさんの人出で開始直後からにぎわいました。今回も作家さんの手づくりの作品、かわいいアイテムが盛りだくさんです。栃木のB級グルメの焼きそばなどの物販ブースも盛況です。



・震災から約2年3か月、回を重ねる度に地元の方々の表情が明るくなって、少しずつ余裕が出来てきたことが感じられます。今回も10点までの数量限定のチャリティー販売と無償提供での開催ですが、本当に喜んで器を選ぶ方々が多く、まだまだニーズの高さを感じました。また値切る人も以前より増えてきていて、元気になってきた証拠だと感じました。



・やはり年配の方が多くですが、東松島の会場は子供連れのご家族など若い方々も多くみられました。じっくり長い時間をかけて選ぶ人も多く、嬉しそうに選んでいる様子はなんともうれしくなります。



・天気が心配されましたが念願の花火も無事上がりました。大輪の花火とともに何度も歓声が上がりました。お世話になった自治会の方々にもごあいさつし、1日のイベントが終了しました。今回も1日のイベントでしたが300名を超える地元の方々に器を選んでいただき、やはり回を重ねる度に少しずつ表情が明るくなっていることを実感することができました。ここでも本当に喜んでくださる方が多く、再び自分の家で生活ができるようになる時まで我々も支援を続けてゆきたいと思いました。

6月9日(日) 帰路 一路益子へ約300km

日曜日は快晴になりました。今回私たちが宿泊した場所は東松島の会場からは約15kmほど離れた宮戸島にあります。この宮戸島は高齢者の割合も高く人口1000人程度の小さな島ですが、住民の素早い対応により高台へ避難し、また本土との連絡橋が分断したにもかかわらず、自衛隊、住民の協力により今回の震災では一人の死者も出ませんでした。宮戸島周辺には多くの小さな島が存在し、これらの小さな島々のおかげで松島沿岸の津波は緩和され被害が小さく済んだと言われています。



・朝、今回宿泊した宿(大森観光ホテル)の方々に陶器市のイベントに来られなかった方々に陶器を選んでもらいました。イベントで朝早かったり夜遅くなった私たちの時間に快く対応していただき、大変お世話になりました。写真右は宿のそばの大森の高台からの景色。小さな島が点在しています。緑もきれいにいい津波の傷跡はあまり感じられません。



・帰路途中の途中、カキ小屋を発見。時期的にはやってはいませんでしたが、またこの景色を見ることができて嬉しくなりました。写真中央は道沿いの冠水した様子、まだこのような場所が多数残っています。写真右は宮戸島入口付近の作業現場。まだ海岸線のあちこちで作業は行われていました。



・塩害の話は聞いていましたが、途中の田んぼには稲が育っていました。
PM5:00 益子に無事到着、コンテナなどを車から降ろし、片付けなどをして全行程終了！
本当におつかれさまでした。今回も現地でもらった多くの笑顔エネルギーに、またそれぞれ明日からの仕事がんばりましょう。

東松島市もそうですが、宮城県の沿岸部を見てみると岩手県の沿岸部に比べ、がれき処理や整備復旧作業などが全体的に進んでいる感を受けます。自治体の財政力や復旧のニーズややり方に大きな差があるように感じられました。

追加 一陸前高田、未来商店街の鶴亀鮎さんへの器のお届け

6/7の益子からの移動日に一部メンバーは鶴亀鮎さんから仮設新店舗オープン用に頼まれていた湯呑(100個)のお届けに行きました。未来商店街には新しい仮設店舗が立ち上がり、また、住民のための施設が出来上がっていました。



・写真左は陸前高田の未来商店街入口。中央の写真が、新しくできた2階建ての仮設の商店街。写真右は鶴亀鮎の大将と新店舗の前で。



・写真左は今回お届けした湯呑たち。作家の木村さんが作った湯呑にメンバー皆で一つ一つ鶴亀鮎の名入れを行いました。写真右は出来上がった住民のためのフィットネスなどレクリエーション施設、これに寄付したイベントの全売上が使われました。

被災地の商店街の変化はこのように少しずつですが見て取ることができましたが、やはり住宅街などの変化はまだほとんどわかりませんでした。自治体が進めている災害公営住宅(低家賃の復興住宅)の進捗状況は前ページに記載しましたが、まだまだ長い時間がかかりそうです。

私たちは引き続きこの活動を仮設住宅が完全になくなるだろうと考えている2018年を一つの目標として支援を継続してゆきたいと考えています。私たちの栃木県内の被災状況も現在ではかなり改善し、ほぼ以前と変わらない状態になってきています。多くの協力作家のいる益子や那須においても、壊れた窯なども治り、だいぶもとに戻りつつありますが、放射能の数値が周辺地域に比べ若干高いこと、それに付随した問題、また、観光客の減少(観光収入の減少)も町としての大きな課題であり、解決すべき問題はまだまだ残っています。作家個人の被災に対する復興だけでなく、大きな意味での町の復興につながるように、当プロジェクトとしては微力ではありますが、継続して支援してゆきたいと考えています。

震災から約2年半を迎えて、復旧、復興が進むことはとてもいいことではありますが、同時に当時の痛み、被災地の痛みを忘れつつあると感じています。募金の減少だけでなく、周りの雰囲気、言動などはだいぶ変わりつつあることも事実です。東北との距離は離れていますが、同じ日本のなかで私たちは平和をけせず、現地を向いていないといけません。

手づくり支援プロジェクトも「地元も現地もともに元気になってもらいたい」というコンセプトは全く変わりませんが、初心を忘れずに、新しいアイデアとともにいろいろな工夫をしながら、長い支援継続の方法を模索してゆきたいと思っています。

参考：震災から2年半、数字でみる手づくり支援プロジェクト

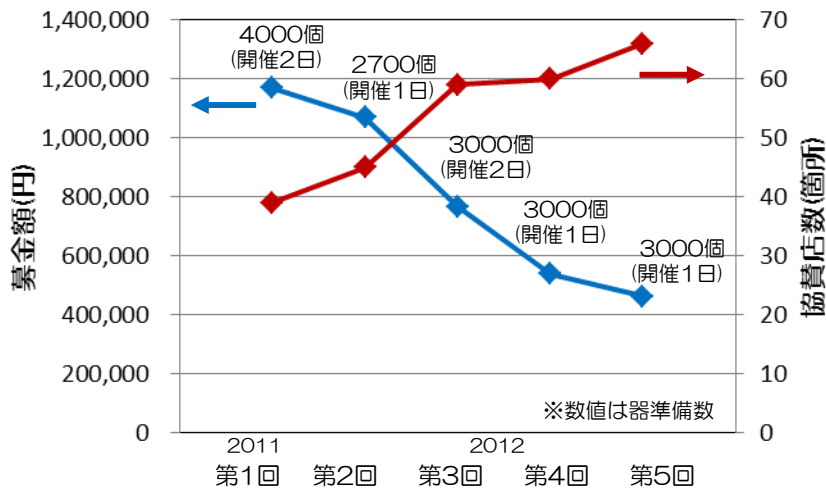


図3. 手づくり支援プロジェクト募金額と協賛店数推移

当プロジェクトの募金額(協賛店、個人、陶器市などでのもの)は大きく減少していますが、募金箱や募金促進グッズなどで協力いただいている協賛店の数は徐々に増えています。1店舗当たりの募金額が減少しても、より多くの協賛店が協力してくださることで、大きな力につながります。

我々も支援継続のためにさらなる新しい募金促進グッズの開発や、新たな工夫を行っています。今回はこれまでの手づくり支援プロジェクトの募金促進グッズ(ホイッスル)に加え、陶器市ではメンバーによる手づくりの新しいアイテム(絵葉書、マグネット、サンキャッチャー、革のコースター、マウスパッドなど)を用意し、募金継続に向け新たな試みも行いました。協賛店ではこれまでのホイッスルによる募金促進が一巡し、募金自体も伸び悩む現状ですが、新たな価値と募金しやすい値段設定などにより概して好評を得ています。



本革製のマウスパッド



手彫りハンコの絵葉書



本革製のコースターと小物など



サンキャッチャー

第5回手づくり支援プロジェクトまとめ 収支

収支報告

- 提供(購入)器数 : 約3000点 (食器類、花器、箸など販売個数1100個+無償提供)
- 協力作家数 : 約90名 (HPへの非記載分含む)
- 協賛店数 : 66箇所(2013/6時点)

収入(募金分)

- 合計(6/7時点) : 462,739円
- 募金額内訳
 - 個人 : 117,449円(うち振込み25,000円、それ以外92,449円)
 - 協賛店 : 237,260円(作家さんによるイベントでの募金含む)
 - 陶器市募金(益子 春) : 83,858円
 - 繰越金(第4回) : 24,172円

支出(器購入費、グッズ材などその他経費)

- 合計 : 317,242円
- 内訳
 - 作家への支払い : 154,330円
 - ホイッスル製作費/募金推進用材料費
(ボード/募金箱、チラシその他雑費、郵送費、器着払い送料その他) : 162,912円

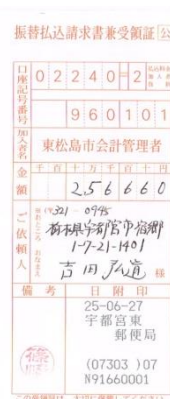
△ 145,497円(第6回へ繰越)

陶器市収入(商店街での器販売分)

- 合計 : 256,660円

売上は全額(256,660円)東松島市へ寄付し、防災環境の整備に使っていただくこととしました。
後日市長より当プロジェクトへ感謝状をいただきました。

- その他
 - (宿泊費@21名 計 278,250円 : 全てメンバー自費
また、現地移動費の一部を本田技研工業株式会社より援助いただきました)



今回は東松島市の方々のたくさんの笑顔を見ることができました。

プロジェクトの支援メンバー、作家さん、協賛店の方々、支援金をいただいた多くの方々のおかげで第5回の東北支援活動が達成できたことを心より感謝しています。震災から約2年半、時間の経過とともに支援の熱が冷めてゆく中、一つ一つの募金額は大きく減ってきていますが、協賛店や作家、メンバーの広がりや各地からの支援の輪が繋がり、これまで同様に開催することができました。(今回は多くの作家さんから無償提供のご支援をいただき、次回に繰り越すことができました。)

被災地も少しずつ復興に向け前に進んでいますが、まだまだほんのスタートラインです。本当に険しく長い道のりに、一過性ではなく継続的な支援が必要です。支援のかたちは時間とともに変わってゆきますが、多くの方々が被災地をより身近に感じていただけるように発信しながら、少しずつ輪を広げて進化させてゆこうと思っています。

小さなプロジェクトですが、ニーズがある限り、メンバー丸力を合わせて継続してゆきますので、今後ともどうぞお力添えのほど、宜しく願いいたします。

第5回手づくり支援プロジェクト参加メンバー



・第5回お届けメンバー

吉田弘道	井上直樹	齊藤有紀・昴成	杓かかり	鈴木征治
塚本謙二	鈴木祥子	加澤祐輔	木村世傑	小向麻子
矢川杏子	加藤航一	小竹智仁	中沢孝治	松下忠生・曜子
矢川士郎	小嶋秀忠	谷雅樹	引地幸悦・光希	田中伸
丹波とも子・虎司郎		大塚ヒサ子	谷本智	

・協力作家(名前の順)

相澤かなえ	笠原良子	斎藤圭	中村かりん	増永典子
阿久津雅土	梶山友里	坂本光永	成田真澄	豆腐なる美
岩見晋介	勝村顕飛	坂本雅子	能登美登利	Masa
池上暁生	加藤博史	佐藤敬	野水美里	三戸綾乃
伊佐名美子	加藤弓	茂野俊也	増湊	溝口丈
石嶋哲彦	加藤喜道	清水秀輝	長谷川奈美	宮島将實
いちかわ清美	川崎萌	荘司武臣	長豊陶苑	松下曜子
伊藤ヨシ	川島郁朗	菅谷太良	蓮見かおり	松下忠生
大塚温子	上條富子	薄田いと	原泰弘	もときみちこ
大津広子	川又和子	ゾエビ E-ブガール	平泉志津子	
奥住久雄	木村世傑	関口洋平	平松龍馬	吉澤奈保子
小野悦子	国友武志	関口まきこ	福地綾子	アツルイグ
おぬきなつ	桑川通治	関川佳古	福田惣一	若菜綾子
岡本芳久	倉前幸徳		福山龍之介	渡辺キ工
岡本有希子	栗原節夫	瀧昭典	藤田安雄	渡辺六郎
岡田直恵	桑原純	豊田雅代	藤井美香	渡辺克典
岡部耕太郎	後藤義国	陶遊舎谷口	杓かかり	その他多数
おとがわさとこ	近藤康弘	戸塚佳奈	堀水小夜	
尾関翼郎			堀水達雄	

・支援してくださった多くの方々

協賛店の方々、光房みちの友人、職場のみなさん、メンバーゆかりの多くの方々、報道関係の皆さま、本田技研工業株式会社

・協賛店(募金箱/グッズ設置協力)

Company

ジョイコム株式会社
ソフトバンク インターパーク宇都宮
ソフトバンク宇都宮東
ソフトバンク鹿沼
ソフトバンク古河
ソフトバンク真岡
イー・モバイル宇都宮

パインズ日光ゴルフ倶楽部

株式会社つかもと
作家館 つかもとギャラリー
陶芸広場つかもと
つかもと記念館

株式会社 日本ヴォーグ社

Cafe & Gallery

GALLERY IN THE BLUE
Cafe R hana
QupuQupu
Café KENZOSUN
益古時計
GALLERY TAS TAS
CAFE CENTRO
作坊 吃(ゾーフアンチー
イチトニブンノイチ
ミハシカフェ

Select Shop

ハナムグリ
GOURD+m
うつわ坂
陶芸・染織 亀工房
アートショップ向井
相玄窯の店 木洩れ日
仁平古家具店
益子 第二倉庫

Beauty

PESCA-COCCA
Handmade soap SQUAMISH
salon kyoko
minori理容所
UppityCovo
hair Labo natura
Ripple Marks HAIR
seal hair work

Education

バナナキッズ (英会話教室)
雀宮校、戸祭校

Stay & Culture

二期倶楽部 アートビオトープ那須
NAO テニスクラブ

Food

pain de masha masha and coffee
パン茶房 小梅堂
ぱんとおかし ノアン
おきなわの杜
食工房NO-RA
とらっとりあ天野
Taverna Sakurai
銀座園
サン・クリストフォロ
Bis-t-eria Meli-Melo
TORATTORIA da RIOBA
鮎暁
Conifers
らー麺 藤原家
蛍の杜 栃木

ホイッスル用の革を提供していただいています。
Special thanks!

オーダーメイド靴
銀座てつじ屋

レザークラフト
井戸辰ドットコム
READY OR ORDER
石井裁断所
(株)廣瀬

ハンドバッグとトータルファッショングッズ
株式会社クイーポ

第6回手づくり支援プロジェクトについて

第6回は宮城県の石巻市を検討しています。秋の益子陶器市後の12月または1月の開催を目指しています。石巻市は、宮城県東部旧北上川の河口に位置し、宮城県内第二の人口(15万1千)を擁する市であり、北東部地域を代表する風光明媚な都市です。

金華山沖(三陸沖)では、黒潮(暖流)と親潮(寒流)がぶつかるため世界三大漁場の1つとなっており、漁場に近い本市は全国でも有数の水産都市となっています。市内の万石浦でカキの養殖法が開発され、世界中に広がりました。また、同市が進めるマンガランド構想の中核施設、仮面ライダーなどの漫画で有名な石ノ森章太郎(現登米市出身)さんの「石ノ森萬画館」もあります。

震災では被災住家は全住家数の約7割の53,742棟、うち約4割の22,357棟が全壊(平成23年10月末)となりました。

1. 被災状況(市役所公表データ 2013/9時点)

- **死亡者数 3041人**
- **安否不明者数 439人**
- **仮設住宅数 7153戸(134箇所)**

※当時の被災写真は市HPより掲載



新北上大橋の落橋



石巻地区市街地



JR 石巻駅の浸水



冠水した大街道



被災した雲雀野海岸堤防



立町大通り商店街の状況

開催情報は詳細が決まり次第、手づくり支援プロジェクトのHPにアップいたします。引き続きみなさまのご支援お力添えをよろしくお願いいたします。

◎お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索
<http://handmade-project.iimdo.com/>

◎支援金の口座 / 銀行振込
足利銀行：駅東口出張所 (普) 3230334
口座名義 手づくり支援プロジェクト



※携帯からはこちら→

協賛 ジョイコム株式会社 (ソフトバンク インターパーク宇都宮 ソフトバンク宇都宮東 ソフトバンク鹿沼 ソフトバンク古河 ソフトバンク真岡 イー・モバイル宇都宮) パイナス日光ゴルフ倶楽部 パナナキッズ 二期倶楽部 アートビオトープ那須 株式会社クイーポ READY OR ORDER 銀座てつじ屋 井戸辰ドットコム

以前の様に美しい町、美しい笑顔がある、それと戻れる日が必ず来ると願っています。千葉 裕人

一日も早く元の生活に戻れるように応援し続けよう、一緒に頑張ろう！伊勢 昌弘

早く元の生活に戻れるように応援し続けよう！

離れていても心は一つ 藤原 一

震災前、東北の美しい町、美しい笑顔、一日も早く戻れるように応援し続けよう！！ 花野 純

みんなの笑顔が戻るようにサポートし続けます。塩野谷 靖

以前よりもまして美しい町になるように応援します。

あけたい夜はない。心配いらず。水の中。石 雅樹

私の笑顔町を、この町を、みんなの笑顔が戻るようにサポートし続けよう！ 同僚

一日も早い復興を願っています。

私は生半かも育ちも東北です。微力ですが、一緒に元気を東北を取り戻しましょう。豊田 将平

一日も早い復興をお祈りしています。皆さんに心強くなる生活が戻りますように。江口 祐

皆様のカンパと努力、我々が頑張っている姿に、少しでもよい刺激を受けています。東北から日本中を元気にしていきたいです。松本 亮

健康、天啓の一着、リハビリ

一日も早い復興をお祈りしています。以前以上に美しい姿に願っています。一緒に頑張ります！ 川越 敬正

新生活には不安もあるけど、思いが、本根が、代えたいです。がんばって下り000 私と一緒にがんばらせます。日比野 美帆

東北 大女子主！ 栃木生半かでもか... 栃木は南東北なので、美しい東北を作ります！ 浅野 裕太

皆の思いが糧になった作品の復興へ一助となりまよう！！ 毛里 昌弘

少しでもお役に立てるよう頑張ります。東北の笑顔が戻りますように祈っています。満田 直樹

少しでもお役に立てるよう頑張ります。東北の笑顔が戻りますように祈っています。若山

一般支援 募金/ボランティア

支援金

作家による支援 食器の提供

手づくり支援プロジェクト

栃木在住の東北ゆかりのメカ-による運営 (広報活動/募金活動推進/促進) ツズ 製作etc.)



手づくりの食器



- 支援金の提供 (寄付、促進) ツズ 購入)
- 被災地での配布ボランティア

- 上代の3割での提供
- B品の無償提供
- 陶器市での募金推進協力

岩手/宮城/福島などの仮設住宅へ直接届ける

本プロジェクトは被災地の仮設住宅へ、栃木の手づくりの食器(益子、那須など)を我々で直接届けるというものです。

生きる基本である「食」、にいろどりを与える「器」で、すこしでも温かい気持ちになってもらえたらという想いで企画しました。

義援金の送付という支援のかたちもありますが、一般の方々からの支援金を、賛同してくださった家さんへ、そして、想いを込めた手づくりの器を提供してもらい、我々で被災地へ届けるというかたちをとっています。

今回の震災で、益子や那須など、多くの作家さんも被害を受けていますが、支援に快く賛同していただきました。キャッシュフローをすることで、金額以上の大きな付加価値で、東北だけでなく栃木も支援したいという想いも込められています。

東北の人と海と山が大好き。おれおれ。心から笑えるように 井上直樹

みんなの笑顔が増えよう様に 斎藤有紀

日本人皆で復旧していきますよ 塚本 謙二

一日も早く以前の生活を取り戻せるように応援しています。少しずつ出来ることを実行していきます。藤原 篤

同じ東北人として応援します！ 見せろ！東北人の「カ」を！ 鈴木 孝太郎

東北の皆さんの笑顔が見たい。この素晴らしい器たちを届けてほしいです。少くともお役に立てるよう頑張ります。かんぱりです。名越 健太郎

東北に笑顔と！ みんなで共に頑張ります！ 上田 健一郎

ここからは復旧ではなく、一刻も早い復興をお祈りしています。いたくなく出来る事は、被災地に行き、上原 順司

一つずつ、この日本という国を震災の前よりもっと良い国にできるように一緒に前に進んで行きますよ。中村 ひとつ、中村 ひとつ

少しでもお役に立てるよう頑張ります。今後のこの様な活動に参加していきます。田中 之人

以前の生活を取り戻せるように私も応援します。一緒に東北パワーを見せつけよう。笑顔をお忘れしないでください。成谷 将志

協賛 GALLERY IN THE BLUE Cafe R hana... QupuQupu Cafe KENZOSUN GOURD+m 益子時計 うつわ坂 GALLERY TAS TAS CAFE CENTRO 作坊 吃(ゾーフアンチ) ハナムグリ パン茶房 小梅堂 銀座園 陶芸・染織 亀工房 pain de musha musha and coffee おきなわの杜 食工房NO-RA とらっとりあ天野 Taverna Sakurai minori理容所 PESCA-COCCA Handmade soap SQUAMISH

今回もこの作家さんのメッセージを添えて器とともにお渡ししました。

第五回 手づくり支援プロジェクト
チャリティー陶器市 in 東松島市
<http://handmade-project.jimdo.com/>

食卓が明るく
 なりますように!!
 塚本謙二

楽しい毎日を送ることが
 できますように!! 伊丹

旧も早く皆様の笑顔が見られるよう
 外でも役に立てたいです。小嶋 純
 少しでも、お役に立てたいです。 雅樹

大好きな東北、仙台まで遊び
 に行きたいです。千葉

少しでも早く、元の生活に戻るのを
 祈っています。 鈴木 征治

是非、お気に入りの
 器をかけた下午茶、
 いろいろ楽しみ

心を込めて お届けします
 一緒に前へ進みましょう
 加藤 雅一

気に入った器で、新しい皆様の
 生活に 楽しさを 生まれるように
 井上 直樹

応援しながら、自分も
 元気ももらっています 田中 弘

山田町から南下して
 今回 東松島にやってきました。 どうして?
 テンカわからなわけじ。
 木村 せ傑



お手伝いさせてもらって
 うれしいです

谷本 智

気に入った器でたくさん
 ご飯を食べて下さい。 新海
 矢本のみねさんの
 笑顔が見たいです。
 齋藤 有紀

楽しい食卓を囲んで下さいね!!
 三戸 綾乃

使ってもらえたらうれしいです
 中村 晋也

使ってもらえたらうれしいです
 里子 水美 屋

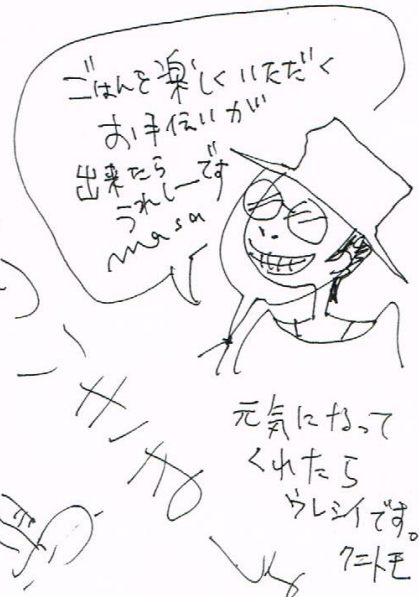
3/11 に 焼き物の展示会の
 搬入で 福島県 いわき市に
 居ました。
 ホントに 怖かったですね。
 栗原 節夫

手づくりの器で
 ご飯をもりもり
 食べて下さい。
 ホソカワ カサリ

手づくりの器で 元気にあっという間に飯を!
 吉田 久道

長く 器を 使ってください。
 坂野 俊也

使ってもらえたらうれしいです。使えたら幸いです。 伊藤 美穂子
 原 泰弘



作家さんと第5回お届けメンバーの写真



手づくり支援プロジェクト
<http://handmade-project.jimdo.com/>

手づくり支援プロジェクト
手づくりの器を直接被災地へ届けよう